【様式】

令和２年度　学校マネジメントシート

学校名（　城山特別支援学校　）

1　目指す姿

(1) 目指す学校像		〇子どもたちの笑顔があふれ、豊かな学びができ、生活力が高まる学校
(2)	育みたい児童生徒像	〇多くの人と出会い、たくさんの経験や体験を通して、自分の生き方を選択できる力をつけ、豊かな生き方ができる子ども。
	ありたい教職員像	〇目指す学校像を念頭に置き、子どもの可能性を信じ、子どもの生き方や考え方を尊重し、子どもを支え、子どもの力を伸ばすことに取り組める教職員。 〇子どもや保護者、同僚との対話を重ね、豊かな関係を築くことができる教職員。

2　現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	（児童生徒）一人ひとりの性格や特徴、障がいを理解し、世界が広がる生き方を応援してほしい。 （保護者）子どもたちが楽しく生き生きと過ごせる環境を作り、社会の一員として生きる力を身につけさせてほしい。 （地域社会）子どもたちが様々な体験や経験を積み、社会の一員として地域で生活できるよう、子どもたちの活動を広げていってほしい。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	【児童生徒、保護者】安全に安心して過ごせる学校であること。学校（教職員）を信頼し様々なことが相談できること。 【地域社会】学校の活動内容について十分に知ることができ、活動に協力できる。	【児童生徒】体調を整え元気に登校してほしい。自分の夢や将来像に向かってチャレンジする意欲を持ってほしい。 【保護者】教職員との信頼関係のもと、子どもたちの生き方を応援してほしい。 【地域社会】ともに子どもたちを育むための一員となってほしい。
(3) 前年度の学校関係者評価等	個々の教職員の意識や教育技術を高めることにとどまらず、学部を超えて連携することでより良い教育活動が展開されることを期待したい。地域や関係機関への情報発信を積極的に行ってもらえれば、協力できることも増えてくると考える。	

(4) 現状と課題	教育活動	・児童生徒のよりよく生きようとする力を育むため、教職員が対話を通して効果的に授業改善を進めていくことが必要。 ・児童生徒の障がいの程度が重度重複化、多様化してきているため、特に自立活動についてさらに授業力を向上させることが必要。 ・教科横断的な教育活動において、個々の教科科目における狙いや成果が期待できるものになっているかの観点から、教育課程を再検討することが必要。
	学校運営等	・児童生徒にとってより安全で安心な学校となるよう、医療的ケアや危機対応時の体制について、一人ひとりの教職員が最新の知見と十分な認識及び的確な対応力をみにつけることが必要。 ・学部や分掌を超えた連携や、デスクネッツの更なる活用、ペーパーレス化を進めることにより業務を効率化し、業務の偏りを解消して時間外労働時間を縮減することが必要。

3　中長期的な重点目標

教育活動	・医療、福祉、労働等にかかる諸機関との連携を強化し、児童生徒の多様なニーズに合致した在学中の支援から進路指導に至るまでをとおして、児童生徒の自立と社会参加を促進する。 ・交流及び共同学習の取組を通して、児童生徒が地域で生き生きと生活できる「人権尊重の地域づくり」をめざす。

学校運営等	・「信頼される学校であるための行動計画 2020」を出発点とし、内外の関係機関を含めた情報連携を密に行い、適切なリスクマネジメントのできる組織となることを目指す。 ・安全で安心な教育環境の整備を進め、感染症、医療的クライシスや自然災害に十分対応できるようにする。 ・効率的な業務の進め方について絶えず検討し、働きやすい学校となるよう改善を進める。

4　本年度の行動計画と評価

（1）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力･指導力の向上	＊小学部 児童の主体的な動きを引き出し、学びをより深めるための授業づくり、授業改善を行う。 【活動指標】 ①情報担当を中心に児童の実態に合ったICT]機器の活用方法を探る。 ②ICT機器を用いて、児童が主体的に参加できる授業づくり、授業改善を進め、授業後にはその検証のための話し合いの機会を設ける。 【成果指標】 ①ICT機器の活用について話し合う機会や制作、活用の機会　学期に1回以上 ②授業検証のための話し合い　学期に1回以上 　検証結果についての肯定的な回答　60%以上 ＊中学部 生徒の実態に沿って、重度の生徒の「深い学び」について考え実践する。実践を振り返り次回や次年度につなげるとともに、教職員の共通理解を図る。 【活動指標】 ①授業力向上：自立活動の視点から生徒の実態把握を行い、つけたい力を明確にしたうえで、国語・数学を中心に授業づくりを行う。 ②授業改善：教科中心の小グループで「深い学び」をキーワードに授業を構築し、授業者支援会議を通して授業改善に取り組む。 ③ｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ：教育課程（国語、数学）の反省と来年度の学習プランを設定する。 【成果指標】 ①　自立活動の視点を活かした国語・数学の授業づくり　100% 「深い学び」の協議を授業づくりに活かせたと感じる教職員の割	小学部 (1)　60%以上を達成 テーマに基づいた話し合いを行い、授業での ICT 機器の活用により児童の主体的な動きを引き出すことができた。 中学部 (1)自立活動の視点を活かした国語。数学の授業づくり100%を達成。 「深い学び」の協議を授業づくりに活かせたと感じる教職員の割合　70%以上を達成。 (2)授業改善週間の設定と授業者支援会議の実施　年 10 回（達成） 本年度の反省に基づいた次年度の学習計画の作成達成予定。	

	合　70％以上 ②　授業改善週間の設定と授業者支援会議の実施　年2回以上 ③　教育課程と教科にかかわる研修において、本年度の反省に基づいた次年度の学習計画作成　100％		◎
	＊高等部 個々の生徒の卒業後の生活をイメージしながら、しっかりと実態を把握し具体的な目標を設定し、その達成に向けて授業内容や指導のあり方を検討、改善する。 【活動指標】 ①　新指導要領に対応するため、自立活動について生徒の実態把握を行い、クラスを中心に共有し、実態把握シートを作成する。 ②　新指導要領に向けた教育課程について、学部での会議を実施して取り組み、次年度の教育課程を決定する。 ③　授業改善に取り組む。 ④　オンラインを含む高等部での情報教育について検討する。 【成果指標】 授業改善ができたと考える教職員の割合　70％以上	高等部 達成と 60%以上　授業改善について、一部の改善にとどまっており、授業について定期的に話し合う時間を確保する等検討が必要。	
	＊教育課程 年間指導計画の見直しを進めながら、新学習指導要領を反映させた高等部教育課程を編成する。 【活動指標】 重複学級の年間指導計画を見直し、教育課程に反映させる。 【成果指標】 新たな年間指導計画の策定　本年度中 【活動指標】 各学部の国語、算数及び数学における授業の在り方を検証し、教育課程に反映させる。 【成果指標】 各学部での取組をもとに部内で協議し、教育課程を編成　今年度中	教育課程 (1)臨時教育課程検討委員会を 3 回持ち、新学習指導要領を反映させた教育課程を策定。授業取組シートを用いた授業反省をもとに来年度の年間指導計画を作成中。 (2)授業支援会議を持ち、目標設定、内容の見直し、改善をすることができた。	◎
	＊自立活動 学部を越え専門的な知識いや技能を有する教師を中心とした校内の相談体制を整備する。 【活動指標】 自立活動の時間に専門的な知識や技能を有する教員を派遣し、授業や個別の指導計画の相談を行う。 【成果指標】 自立活動部が通年で相談対応した結果、自立活動の指導力が向上したと回答した職員の割合　70％以上	自立活動 78％　実態把握について各教員の認識にばらつきがあったが、通年で対応し共通理解を持つことができた。高等部では研修部と連携し、自立活動しーとを作成し指導内容を見直した。	

	＊支援推進 支援会議やケース会議、進路懇談会の実施をとおして、積極的に福祉事業所や進路先の開拓を行い、職員や保護者に向けて情報を発信する。 【活動指標】事業所一覧表を作成し、学校HPへ掲載する。積極的な情報収集と共有を進める 【成果指標】校内支援や進路指導に関する教職員・保護者の満足度アンケートにおいて肯定的な回答　80％以上 **＊人権教育推進** 地域での生活を豊かにしていくことをめざし、居住地校交流及び学校間交流を行う。 【活動指標】児童生徒の狙いに応じた交流を行うため、交流相手校との話し合いを年1～3回行う。 【成果指標】両校でねらいを共有し、取組に反映できたと考える回答　70％以上	支援推進 肯定的な回答 「子どもの将来の生活を見据えた切れ目のない取組」92.5％、関係機関との連携82.1％、支援会議・ケース会議による連携　80.8%　となり達成できた。 人権教育 交流の大半は　70%以上達成。直接交流ができず難しかったがこれまでの積み重ねにより話し合いが持ちやすかった。	

改善課題
・校外研修等の機会が減ったが、指導力の向上に向け充実した校内研修を積み上げることができた。反面、研修内容が教職員の実態や求められる力に合致しているのか検討が必要である。 ・支援に対する満足度は高いが、高評価に甘んじるのではなく、児童生徒の実態や保護者のニーズにあった支援になっているかを振り返る機会が必要である。

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組　「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
資質向上 情報提供	＊総務 地域との連携及び協働の推進、職員の同僚性や協働性の向上 【活動指標】学校HPの更新 【成果指標】学校HPの更新　年10回以上 【活動指標】校内研修会を年2回以上実施する。 【成果指標】職員満足度アンケートにおける課題項目において、肯定的な回答　昨年度比20%を超える向上 ＊教職員の研修 校外の研修会及び研究大会へ積極的に参加するとともに、校内研修会の充実を図る。 【活動指標】校外の研修会等への参加　1人年2回以上 【成果指標】校外での研修会等に係る校内での情報共有をした教職員の割合　70%以上 【活動指標】校内研修会の実施　年10回以上 【成果指標】校内研修会へ出席する教員の割合　毎回70%以上 ＊生活指導 新型コロナウイルス感染症にかかる学校行事の方向性の検討をはじめとして、業務における早期対応早期見直しを徹底する。 【活動指標】 ・全員の業務関わりによる運営を行い、会議の60分以内終了、デスクネッツ等を活用した効率的な情報共有と事前準備を徹底する。 ・災害時における保護者との連絡方法を整理し、特に災害用伝言ダイヤルの利用について、体験実施日を増やすなどして認知と利用率の向上を図る。 【成果指標】 災害用伝言ダイヤル体験日における利用率　80%以上（R1年度　65%）	＊職員満足度アンケートにおける次の項目において向上した。（言いたいこと、必要なことは気軽に話すことができている　35.4%⇒62.7%、学部の指導方針をお互いに伝え合い理解し取り組んでいる　28.2%⇒50.7%、法令等を守り行動に責任をもって仕事を進めるよう心掛けている　47.4%　⇒95.9%） HPの更新　26回 ＊教職員の研修 校外研修の機会がほぼなくなった。 ＊生活指導 災害伝言ダイヤル利用94.5%	

	＊保健安全 職員の不注意による事故件数の減少に取り組むとともに、医学一般研修修了教員の比率向上を目指す。 【活動指標】 ・ヒヤリハット報告を出しやすくする環境を整えるため、分掌内で検討を重ねる。 ・医学一般研修未受講者の校内研修への参加を増やし、医療的ケアに対する意識を高める。 【成果指標】 医学一般研修未受講教員の校内研修会への参加　50％以上 ＊寄宿舎 より良い寄宿舎整備について、課題解決に取り組む。 【活動指標】特別支援学校寄宿舎整備協議会及び担当者会議への出席と、それに向けての舎内及び舎務委員会での話し合いを行う。 【成果指標】特別支援学校寄宿舎整備協議会への代表2名の出席　年3回以上 寄宿舎職員会議での話し合い　年3回以上 舎務委員会での検討　年2回以上	＊保健安全 ヒヤリハット報告を出しやすい環境について、報告書の形式を改善、報告の流れを整理。 医学一般研修未受講者の研修会への参加　83％ ＊寄宿舎 整備協議会1回、打合せ2回。寄宿舎職員会議での話合い３回。	
組織運営	(1) 情報管理と情報共有 【活動指標】個人情報等の管理、コンプライアンス向上にかかる研修会の実施 【成果指標】研修会の満足度（肯定的評価）90％以上 【活動指標】学校運営にについてオール学部分掌代表による建設的な議論の場を作る 【成果指標】運営委員会後の議論　毎委員会後に実施	＊運営委員会後の議論は毎回行った。組織改編に向け議論を進めている。	
	(2) 感染症対策を中心とした情報共有と対策の絶え間ない更新 【活動指標】学校医をはじめとする医療専門家と連携し、最新の情報や対策についてアップデートするとともに、校内における対応を適時見直していく。 【成果指標】医療専門家によるコンサルティング　学期に1回以上	＊学校指導医及び指導看護師によるコンサルティング　年3回	
	(3) 資料の事前配布やペーパーレス化による効率的な会議等の運営 【活動指標】すべての会議、委員会等の 60 分以内の終了 【活動指標】会議資料の紙での配付をやめ事前にデータで共有するものとし、ペーパーレス化を図る 【成果指標】ペーパーレスによる会議の実施　全委員会で1回以上	＊職員会議資料及び一部の委員会資料は事前に指定のフォルダへ格納するやり方が定着した。 医療的ケアバックアップ委員会において、ペーパーレス会議 8 回、オンライン会議2回	

		支援部分掌会において、大型モニターを利用した共有、ペーパーレス会議各1回。	
	(3) 働き方改革を踏まえた効率的な業務の推進 【活動指標】時間外勤務時間の減少及び計画的な休暇取得 【活動指標】リフレッシュデー(毎月最終金曜日)の実施 【活動指標】学校閉校日の設定 【成果指標】時間外勤務時間が月 45 時間を超える、または年 360 時間を超える職員　0 人 【成果指標】年次有給休暇の取得　年 10 日以上(平均) 【成果指標】リフレッシュデーにおける 18 時全員退校　6回以上 【成果指標】学校閉校日　年4日	＊月 45 時間超の職員(のべ)3 名 ＊年休の取得は順調 ＊リフレッシュデーは毎月指定して実施 ＊学校閉校日　年4日	

改善課題
業務の効率化について ・資料のペーパーレス化や会議のオンライン化は目覚ましく進んだととらえているが、先行する部門となかなか切り替えられない部門の差が広がっている。将来「統一校務支援システム」が全特別支援学校に導入されることをふまえ、一層の業務効率化を進めたい。「物的」な効率化から、組織改編や人員配置を中心として「人的」な効率化に重点を置いていく必要がある。 授業力（教師力）の向上について ・学校外での研修の機会がなくなったり、オンラインでの開催になったりしたことで、「言われてする」「定例的にする」これまでの研修から、教師一人ひとりが自らの課題を明確化し、必要な研修を積極的に取り入れていくスタイルへと否応なしに変わらざるを得ないと考える。 ・教師が相互の指導や取組について、また児童生徒や保護者に係る情報について、積極的に交換できるよう、時間や機会を保障するとともに、忌憚なく意見を言い合えるような組織風土づくりを一層進める必要がある。 ・保護者とのかかわりのなかで、子どもを中心に置き「ともに子どもの幸せを願うパートナー」として保護者と連携できているかを問われた 1 年であった。コミュニケーションや指導法について、一層の力量アップが必要である。 関係機関との連携や交流、情報交換について ・リアルでの交流が難しい年であったが、オンライン等を活用することにより自由度が高くなったところも多くある。時代に合った発信や交流の方法について、実施しながら改良し進めていくことが必要である。

5　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・感染防止対策に注力し校内での発生を防ぐことができている点を評価したい。生徒による衝立の制作など、児童生徒が学校運営に関与する姿があるのは良い取組である。 ・学部内での教師間の情報交換や、保護者と教師のコミュニケーションについてはまだ課題が多く感じられる。特に保護者との関係づくりは教師の力量が問われるところであるので、しっかりと反省して取り組んでもらいたい。

６　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・種々の研修がどのように積み上がり児童生徒へ還元できているか、今必要な力をつけるための研修ができているかについて検証し、全校的な研修マネジメントを行う。 ・進路情報や支援情報の積極的な収集と周知方法について、引き続き改善していく。切れ目のない支援が卒業後も継続するような、進路指導の「柱」を明確化する。
学校運営についての改善策	・組織の再編による業務の効率化・平準化、各分掌間、各学部間での協力体制の構築。 ・感染症対策をはじめとする危機管理について、本年度の取組を踏まえた改善と一層の危機管理意識の継続を図る。